

小学校のあり方に関するアンケート調査
ご協力をお願い

豊橋市教育委員会

皆様には、日頃から本市の学校運営及び教育委員会活動にご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、本市教育委員会では、今後中長期的に児童数が全体として減少していくことが見込まれ、併せて学校施設の老朽化も進んでいくという状況下において、極めて重要な喫緊の課題として、今後どのように子どもたちによりよい教育環境を提供していくか検討を進めています。

この調査は、小学校のあり方を検討するための調査・研究資料として、皆様のご協力をお願いするものです。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

《記入上の注意》

- 1 はじめに「参考資料」をご覧ください。
- 2 「学年」、「組」、「番号」及び「氏名」を記入していただく必要はありません。
- 3 各問について、別紙マークシートの該当箇所のマークを濃い鉛筆で塗りつぶしてご回答してください。
(ボールペンは使えません。)
- 4 別紙マークシートは機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないようお願いいたします。
- 5 回答は、特に指定が無ければ1問につき1つだけ選択してください。
- 6 ご記入いただいたマークシートは6月3日(月)までに封筒に入れて学校に提出してください。
- 7 問合せ先 豊橋市教育委員会 教育政策課 電話51-2819

問A 回答されているご自身の性別をお答えください。 【マークシート「1」に記入】
1 男 2 女

問B 回答されているご自身の年齢をお答えください。 【マークシート「2」に記入】
(平成31年4月1日現在の満年齢でお答えください。)
1 29歳以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代以上

問C お子さんとの関係をお答えください。 【マークシート「3」に記入】
1 父母 2 祖父母 3 兄弟 4 その他

問D 現在お子さんが通っている学校名をお答えください。 【マークシート「4」「5」に記入】

<記載例> 01岩田 を回答する場合 → 「4」に0をマーク、「5」に1をマークしてください

01 岩田	02 豊	03 東田	04 八町	05 松葉	06 花田
07 松山	08 新川	09 羽根井	10 下地	11 大村	12 津田
13 牟呂	14 汐田	15 吉田方	16 高師	17 幸	18 芦原
19 福岡	20 中野	21 磯辺	22 大崎	23 野依	24 植田
25 牛川	26 鷹丘	27 下条	28 多米	29 岩西	30 飯村
31 つつじ	32 旭	33 栄	34 天伯	35 大清水	36 富士見
37 向山	38 前芝	39 西郷	40 玉川	41 嵩山	42 石巻
43 谷川	44 小沢	45 細谷	46 二川	47 二川南	48 豊南
49 高根	50 老津	51 杉山	52 賀茂		

問E あなたにとって、お子さんが通う小学校はどのようなところであるべきだと思いますか。
(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「6」「7」に記入】

- 1 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学ぶところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

<記載の注意>
各欄に1つのマークしかできません。
「6」に最もあてはまる選択肢をマーク、
「7」に次にあてはまる選択肢をマークしてください。1つしか当てはまらない場合は、「6」のみにマークしてください。

- 問F 現在お子さんが通っている学校規模(参考資料3「学校規模の分類別学校数」参照)に満足していますか。【マークシート「8」に記入】
- 1 満足している
 - 2 どちらかという満足している
 - 3 どちらかという不満である
 - 4 不満である

- 問G 1学年あたりの学級数として、理想的だと思うものを一つお選びください。【マークシート「9」に記入】
- 1 1学級
 - 2 2学級
 - 3 3学級
 - 4 4学級以上

- 問H 問Gの理由として当てはまるものをお選びください。(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「10」「11」に記入】

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 クラス替えができる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることできる
- 9 学校の教職員数が多く、行き届いた教育が受けられる
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動ができる

＜記載の注意＞
各欄に1つのマークしかできません。
「10」に最もあてはまる選択肢をマーク、
「11」に次にあてはまる選択肢をマーク
してください。1つしか当てはまらない場合
は、「10」のみにマークしてください。

【問Gで「1」を選んだ方は問I・問Jへお進みください。】

- 問I 1学級の児童数として、適当だと思うものを一つお選びください。【マークシート「12」に記入】
(1学級の最大児童数は1・2年生が35人、3～6年生は40人が基準となっています。)
- 1 20人未満
 - 2 20人～40人

- 問J 問Iの理由として当てはまるものをお選びください。(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「13」「14」に記入】

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- 5 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 競争意識を持ちやすく、能力向上につながる
- 8 男女比の偏りが生じにくい

＜記載の注意＞
各欄に1つのマークしかできません。
「13」に最もあてはまる選択肢をマーク、
「14」に次にあてはまる選択肢をマーク
してください。1つしか当てはまらない場合
は、「13」のみにマークしてください。

- 問K クラス替えの必要性についてどう思いますか。【マークシート「15」に記入】
- 1 必要
 - 2 どちらかという必要
 - 3 どちらかという不要
 - 4 不要

【問Kで「1」または「2」を選んだ方は問Lへ、「3」または「4」を選んだ方は問Mへお進みください。】

- 問L 問Kで「1」または「2」を選んだ理由をひとつお選びください。【マークシート「16」に記入】
- 1 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
 - 2 児童同士の人間関係や児童と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
 - 3 学校全体にエネルギーが生まれる

- 問M 問Kで「3」または「4」を選んだ理由をひとつお選びください。【マークシート「17」に記入】
- 1 固定された友人の中で人間関係を深めることができる
 - 2 慣れた環境で落ち着いて学習できる
 - 3 クラスの団結力を強めることができる

問U 問Nで「3」または「4」を選んだ理由をお選びください。
(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「27」「28」に記入】

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童一人ひとりが活躍する機会が多い
- 4 異学年間の交流が生まれやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える

<記載の注意>
各欄に1つのマークしかできません。
「27」に最もあてはまる選択肢をマーク、「28」に次にあてはまる選択肢をマークしてください。1つしか当てはまらない場合は、「27」のみにマークしてください。

問V 問Nで「3」または「4」を選んだ方にお尋ねします。
小規模校対策(例えば学校の統合)は不要だと思われるが、あなたの考え方に近いほうをお選びください。 【マークシート「29」に記入】

- 1 人数によらず不要
- 2 複式学級※になったら必要

(※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3年生と4年生で1学級とする。
複式学級の目安：1・2年生の児童数の合計が7人以下、3・4年生の児童数の合計が14人以下、5・6年生の児童数の合計が14人以下)

問W 全員にお尋ねします。小規模校として存続する場合に必要なことは何だと思えますか。
(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「30」「31」に記入】

- 1 特色ある学校づくり(校区の豊かな自然、文化等を生かし、地域のニーズを踏まえた体験的・問題解決的な活動を取り入れたカリキュラム編成等)
- 2 他校との合同授業の充実
- 3 特認校制度※の充実・拡大
※小規模校のよさを生かし、特色ある学校づくりを行い、その学校で学ばせたい希望者に、通学区域にとらわれず入学を許可する制度
- 4 教職員体制の充実
- 5 通学区域の見直し

<記載の注意>
各欄に1つのマークしかできません。
「30」に最もあてはまる選択肢をマーク、「31」に次にあてはまる選択肢をマークしてください。1つしか当てはまらない場合は、「30」のみにマークしてください。

問X 問Wで「3」を選んだ方にお聞きます。どのような特認校を充実・拡大した方がよいと思えますか。
(当てはまる順に2つまでお選びください。) 【マークシート「32」「33」に記入】

1 ICT教育	2 英語教育
3 スポーツ	4 音楽等の芸術
5 トップレベルの学力	6 体験を重視した多様性を伸ばす教育
7 地域と連携した教育	

<記載の注意>
各欄に1つのマークしかできません。
「32」に最もあてはまる選択肢をマーク、「33」に次にあてはまる選択肢をマークしてください。1つしか当てはまらない場合は、「32」のみにマークしてください。

自由記述

豊橋市では子ども達によりよい教育環境を整えるために、学校の統合も視野に入れながら、学校規模の適正化について検討しています。保護者の皆様のご意見があれば、お聞かせください。マークシート用紙の裏面に記載をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

参考資料

【全国的な少子化の進展状況】

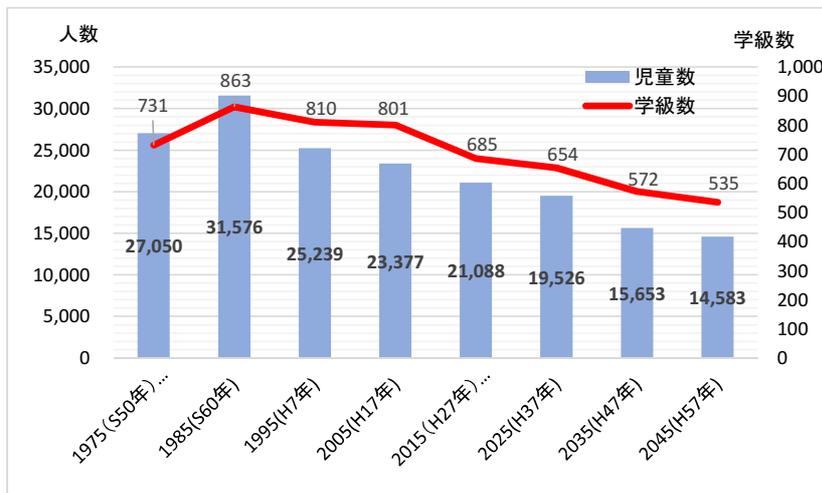
年少人口（0～14歳）について、1980年代の2,700万人規模から減少を続けており、2015年に1,500万人台に減少し、2056年には1,000万人台を割り込み、2065年にはおよそ900万人になることが推計されております。

こうした背景のもと、学校が過度に小規模化したり教育環境に影響が出たりすることが、全国的に懸念されています。

【豊橋市の小学校の現状】

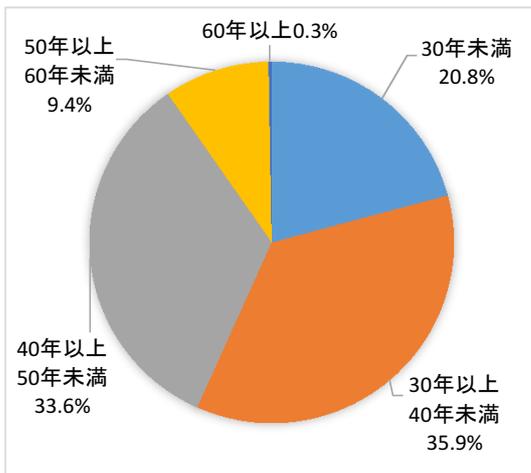
1 小学校の児童数・学級数の見通し

2015年に約2万1千人であった小中学校の児童生徒数が、2045年には約1万5千人と約6千人減少する見込みです。また、2045年の学級数は535学級となり、2015年よりも150学級ほど減少する見込みとなります。



2 小中学校の校舎・体育館の経過年数と学校の運営費用

校舎と体育館では、建設後50年を超えた建物が全体の9.4%、40年以上50年未満が33.6%と、建設後40年以上経過した建物が4割超となっています。なお、校舎の耐震補強は完了しているため、保全工事を行うことで施設の使用は引き続き可能であると見込んでいます。また、学校の運営費用は年間約64億7千万円となっており、そのうち約8億円（一般財源）が老朽化対策費となっています。



市立小中学校の運営にかかった費用 (児童生徒1人あたり年間)
約204,600円
(一般財源額約72,500円)
29年度の児童生徒数は約3万2千人、全74校の運営費は約64億7千万円になりました。

3 学校規模の分類別学校数（平成30年9月現在）

文部科学省では、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準の学校規模とされています。その分類に基づくと市内の小学校は、標準規模が22校（42.3%）、それ以外が30校（57.7%）となります。

	小規模校 11学級以下（全学年の合計）	文科省が定める学校規模の標準 12～18学級 （全学年の合計…1学年あたり2～3学級）	大規模校 19学級以上（全学年の合計）
市内の小学校	19校（36.5%）	22校（42.3%）	11校（21.2%）

※特別支援学級を除く

4 特認校制度

豊橋市では、小規模校ならではの良さを活かした特色ある学校づくりを行っている下条小・嵩山小・賀茂小に、市内のどこからでも通学できる特認校制度を行っています。（2020年からは、八町小も特認校となる予定です。）

（1）嵩山小学校 プログラミング教育の先進校

次期学習指導要領でプログラミング教育が必修化されるのを受け、平成29年度から複数のプログラミングソフトを使って、プログラミング的思考を育成しています。

（2）八町小学校 英会話のできる豊橋っ子の育成

英語と日常的にふれあい、世界で活躍できる力を持った子どもを育てるために、小学1年生から6年生までの希望者に対して、国語・道徳以外の授業を英語で受ける「イマージョン教育」を平成31年度から開始します。



ロボットを活用したプログラミング学習
（嵩山小学校）



英語で算数の授業（八町小学校）

5 いまどきの新しい校舎

高根小学校（30年度は学校全体で9学級）では、本市で数十年ぶりとなる木造校舎が3月に竣工し、木の温かみのある教室で子どもたちが元気に学んでいます。校舎建設にあたっては、子どもたちの意見を取り入れ、階段に座って本を読んだり、スクリーンを見たりすることができる「ふれあい階段」や、広い多目的スペースなどがあります。また、校区市民館が隣接し、子どもと地域の方が交流できるスペースもあります。



木造校舎



ふれあい階段